

授業概要

エドガー・アラン・ポーを中心として、英語圏のゴシック小説の傑作を分析する。その映画化作品も同時に議論してゆくことで、「読む」という行為を拡大し、「分身」というテーマの意味を考察する。また、それらの文学が書かれた文化的背景に迫ると同時に、文学を通じた他者理解を目指して講義する。

授業計画

第 1 回	ゴシック文化とは何かー『オトランドの城』と『カリオストロの城』
第 2 回	アメリカン・ゴシックについてーエドガー・アラン・ポーや POV 映画との関連
第 3 回	魔女とホーソーナー『ヤング・グッドマン・ブラウン』『緋文字』
第 4 回	エドガー・アラン・ポーとは何者かー『推理作家ポー』における作家イメージ
第 5 回	ポーの「ウィリアム・ウィルソン」論ー古典的分身物語
第 6 回	ポーの「モルグ街の殺人」論ー猿の反逆・奴隷・分身
第 7 回	ポーの「群衆の人」ー推理小説の誕生
第 8 回	ポーの「使い切った男」ー人造人間の文化史
第 9 回	ハーマン・メルヴィルの『白鯨』論ーモビィ・ディックとエイハブ船長
第 10 回	推理小説の文化史ーホームズと『斑の紐』『四つの署名』
第 11 回	ラフカディオ・ハーンー多文化的妖怪の文学
第 12 回	H・P・ラヴクラフトのゴシック小説
第 13 回	ウィリアム・ゴールディングの『蠅の王』とは何なのか？ー恐怖の島の物語
第 14 回	スティーヴン・キングの『ミザリー』『シークレット・ウィンドウ』論ー作家三部作
第 15 回	ゾンビを使った文学ー古典の劣化/進化論
第 16 回	定期試験

到達目標

- ・学生が共通のテーマの下で選出した英語圏の文学を読むことで、これらの作品が書かれた文化的背景を把握し、異文化理解を深めることができる。
- ・学生が異文化を理解することで、国語の読解力を育成することができる。

履修上の注意

楽しい授業にしてゆきたいので、積極的な参加を望みたい。授業時にはコメントペーパーを配布するので、授業の終わりにできるだけ多く質問や感想や意見を書いて提出すること。多くの資料を配布するのでファイルを持参のこと。普段から関心をもって本を読むように心がけてもらいたい。

予習・復習

前もって配布した資料は事前に予習として必ず読み、授業後に再び読み直してほしい。また、興味をもった作品は、自分で自発的に読んでもらいたい。

評価方法

学期末試験（60%）、提出物（レポート）およびコメントペーパー（40%）などの総合評価。

テキスト

毎回授業で資料を配布する。また参考文献については適宜指定する。